

〔近世奇跡考〕<sup>四</sup>大高子葉煙管筒

下に圖をあらはす、<sup>略</sup>○圖 煙管筒は太高源五當におぶる所の物なり、京師にありし時、みづから俳諧の句をかきつけて、小野寺氏の僕、久右衛門と云者にあたふ、久右衛門後に金粉を以て、これを修飾しけるよし、京四條室町河津氏、これを得て秘藏しけるを、予<sup>京</sup>○岩瀬が好古の癖あるをき、て、これをゆづらる、別に傳系の書ありといへども、こゝには略しつ、

〔毛吹草〕<sup>三</sup>伊勢 キセル通

〔あぶらかす〕雜

おれすまがらすとほらざりけり  
きせるあらふ鯨のひげのみじかくて

〔嬉遊笑覽〕<sup>十上</sup>きせるといふもの、昔もあり、<sup>略</sup>○中今ははりがねにて造れ共古製の如く、鯨腮にて造らばよからん、

〔玉川砂利〕光明真言歌仙

檀特庵述

冬抱て見るほどの木はなき花千もと  
えらう竹とほす蘆の芽の錐

煙管商

〔人倫訓蒙圖彙〕<sup>五</sup>幾世<sup>キセル</sup>留張 今二條通富小路に、櫻やといふ者あり、其先祖これをはじむとかや、むかしは葎をそぎで、それにてのみしとなり、京間町通三條の下、三條大橋の東大佛におほく住す、近比水口坂本團子や、これ名物なり、

〔近世職人盡畫詞〕らうのすげかへ

らうのすげかへ、きせるの安うり、鼠や櫻ばり、如心でも、今戸でも、よくと、のへたれば、えりどりにめせかし、